

## 9月の植物

### リンドウ (リンドウ科)

学名 : *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.)

秋を彩る青紫色のリンドウの花。9月下旬、天山頂上の草原で見事なリンドウの花に出会った。近くにはタンナトリカブトの深青色の花も咲いていた。これまで貧弱な花しか見なかったのので、感激して写真に収めた。下の写真がそうです。リンドウは関東以西に分布し、佐賀県植物目録（馬場胤義編 1981）には県内各地にやや普通と記載されている。しかし、最近はなかなか見る機会が少なくなった気がする。

茎は高さ 30~40 cm で直立、葉は対生して柄がなく、茎を抱き込むようにつく。全縁で縦に走る3本の脈が目立つ。花はリンドウ属植物に共通することであるが、曇りや雨の時は閉じていて、日がさすと開く。根はかじると竜の胆汁ほどの強烈な苦味があるということで「竜胆」の名があり、薬用とされる。苦味が舌先を刺激して、大脳反射により胃液の分泌を促すとされ、消化不良や食欲不振に用いられる。また、苦みは熱を下げ、炎症を抑える作用があることから、これを目的として多くの漢方薬に配合される。

リンドウの名前で切り花として売られているのは北海道や本州北部に自生するエゾリンドウの系統種のことであるが、リンドウとは種が異なる。また、リンドウの仲間に高さ 5~10 cm のフデリンドウやハルリンドウがあるが、面白いのは秋咲のリンドウは大型の多年生であるのに春咲のリンドウは小型の1~2年生であることである。

(文・写真 野中源一郎)



2016.9.26 天山